

令和3年度 校内研究反省

小田原市立三の丸小学校

成果

①一人一回授業を行うことの効果

(1) 本校の研究の考え方を継続することができた

子どもたちがひびき合える授業をめざし、単元構想をつくる段階から授業後まで、学年やブロックで何度も協議を重ねた。子どもの思考の流れに沿った単元構想づくりや、ひびき合いをめざした本時のあり方などを検討する中で、本校の研究の考え方を継続し、学校全体として研究主題にせまる姿勢を保つことができたと考える。本校は、10年以上同じテーマで研究を積み重ねており、研究内容が深いがゆえに、教員の理解に差が出やすい。今後も学年やブロックで一緒に授業をつくり、研究の考え方にせまっていく姿勢を大切にしていきたい。

(2) 教師自身の自己研鑽の場となっている

一人一回の研究授業は、その単元の中でどうしたら研究主題やブロックのテーマを具現化できるか、一人ひとりが追究することができる貴重な自己研鑽の機会になっている。また、普段はなかなか他の教員の授業を参観することができないが、他の教員の授業を参観することで、学びや気づきを得られることが多い。今後も、研究主題を追究していく中で、教師自身の力量を高めていくことができる校内研究を推進していきたい。

②学級経営検討会の実施

学級経営検討会を行ったことについて、今年度も「いろいろな意見、助言をもらって参考になった」「勉強になった」等の感想が多く、自分の学級経営を振り返るだけでなく、他の教員からの学びも大きかった。また、「ひびき合いの土台」となる部分を、日々の学級経営・教科指導の中で具体的にどのように指導していくのかを明らかにすることができ、学級経営と研究テーマとのつながりを意識することができた。特に、ひびき合うために必要な「聴く・話す」の指導を、普段から意図的に指導している教員が多い。今後は、検討会で話し合ったことをふまえ、学年やブロック内で子どもの名前を出しながら情報共有したり、互いの授業を見合ったりしながら、研究の土台となる部分やひびき合いにつながる授業実践について普段から話ができる雰囲気大切にしていきたい。

③研究課題の手立て

単元構想をつくり、子どもにとって「やってみたい」「考えてみたい」という切実な問題をつくろうと努力することができたと考える教員が多かった。その要因の一つに、学年やブロックで、子どもの具体的な姿を思い浮かべながら話し合い、子どもの思考の流れに沿った単元構想をつくったことが挙げられる。単元構想なくしては、子どもにとっての切実な問題を明らかにすることは難しい。今後も、「この子ならこう言うと思う。」「こう考えるだろう。」と子どもの姿を具体的に思い浮かべながら単元構想をつくっていくことを大切にしたい。

また、年度初めに「単元構想の書き方説明会」を行ったことがよかった。研究テーマにせまるた

めの大切な手立てであるので、年度初めに単元構想の書き方と、「何のために単元構想をつくるのか」という基本的な考え方を共通理解しておくことは、今後必要であると考え。

課題

①「ひびき合い」の土台となる学級経営案の書き方

学級経営案は、子どもたちの成長のために、どのような手だてが考えられるのかを明らかにするものである。学級経営案には子どもの実態や教師の思いだけでなく、教師の具体的な手だてを書くようにしたい。

➡年度初めに行う「学級経営案の書き方説明会」で、再度伝えていく。

②今年度の重点項目「ノート指導」について

今年度から2年計画で「ノート指導」を重点項目として掲げている。今年度は、研究授業を行う際に、ひびき合うためにどのようなノート指導をするのか指導案に明記し、意識して指導できるように取り組んだ。また、各クラスのノート指導の実践例を収集したので、整理・分類した上で、よりひびき合うためにどのようなノート指導が効果的なのか、来年度研究を深めていきたい。